

科目名	小児看護援助論 I		時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師 看護師として5年以上の実務経験を有する 専任教員		2年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	小児疾患の病態・症状・診断・治療の理解などを基礎に、病態別看護・治療処置別看護・経過別看護について、主体的に学び、看護実践能力を養うことを目的に当該科目を設定した。					
学習目標	主な小児疾患の病態と看護について理解する 健康障害や疾患をもつ子どもと家族への援助方法を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護	1 病態の理解と看護 2 経過別看護 (1) 急性期、回復期、症状消失後、退院に向けて (2) 家族への援助・学校との連携				講義
2~3	川崎病の子どもと家族の看護	1 病態の理解と看護 2 経過別看護 (1) 急性期、回復期 (2) 家族への援助				講義
4~5	食物アレルギーの子どもと家族の看護	1 食物アレルギーの子どもの看護 (1) アレルギー症状に対する看護 (2) 予防と日常生活における注意				講義
6	障害のある子どもと家族の看護	1 障害のとりえ方 2 障害のある子どもと家族の特徴 3 障害のある子どもと家族への社会的支援				講義 DVD
7~8	気管支喘息の子どもと家族の看護	1 気管支喘息の子どもの看護 (1) 病態の理解 (2) 喘息発作への対応 ア 理学療法 (腹式呼吸・排痰) イ 薬物療法 ウ 吸入療法 エ 酸素療法 オ 輸液療法 (3) 予防 ア 環境調整 イ 運動療法				講義
9~12	感染症の子どもと家族の看護	1 感染症の子どもの看護 (麻疹、無菌性髄膜炎、百日咳、ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症、乳児難治性下痢症) (1) 病態の理解 (2) 治療・処置別看護 (3) 日常生活指導と家族への援助				講義 演習 ・吐物処理
13~14	低出生体重児と家族の看護	1 病態の理解 2 胎外生活への適応を支える看護 (1) 体温調節、呼吸の調整、循環の調整、水分・電解質の調整 (2) 低血糖予防、感染予防 3 成長・発達を支える看護 (1) ふれあい・安楽な姿勢の保持 (2) 授乳 (3) 環境調整、支援体制の整備、家族への援助				講義
15	試験	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論			奈良間 美保 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論			奈良間 美保 他	医学書院	
参考図書・資料等	写真でわかる小児看護技術アドバンス			山元 恵子 他	インター メディカ	
評価方法	筆記試験・グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					